

## 第 22 回企業・組織の BCP／防災勉強会@仙台を開催しました（2016/4/8）

テーマ：事業継続計画（BCP）、防災

場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市青葉区）

2016年4月8日(金)の夕刻、東北大学災害科学国際研究所において、当研究所の丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）の研究室が主催する『第 22 回企業・組織の BCP／防災勉強会@仙台』が開催され、丸谷教授が話題提供を行い、寅屋敷哲也 助教（同分野）が企画及び事務局を担当し、佐々木宏之 助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が勉強会の議論に参加しました。当勉強会のメンバーには、各業種の民間企業や東北地方の公的組織、東北大学の教員や学生など、現在約 50 名が参加登録しており、当日は 18 名が参加しました。

新年度をむかえ、今回から新メンバーが5名参加したので、まずメンバー全員で自己紹介を行い、これまでの経歴や事業継続・防災との関わりなどの情報をお互いに共有しました。続いて、メンバーである兵庫県の行政書士 伊藤聖子氏が「阪神淡路大震災の被災経験をもとに企業の BCP における確実な要員確保につなげるための家族の BCP(FCP)と小規模事業者の危機管理」というテーマで話題提供を行いました。災害後の事業継続を安心して実行するには、迅速な家族の安否確認が必要であり、経営者や従業員のそれぞれの家族への連絡手段をいかに確保すべきか、そして一度作った連絡手段の確保策をいかに維持していくかについて、自らの取組を踏まえて発表しました。その後、企業の視点や病院の視点なども加え、活発な議論が展開されました。最後に、丸谷教授が「BCAO アワード 2015（NPO 法人事業継続推進機構が事業継続の普及および実践に貢献した個人・団体を表彰）の審査結果」について説明しました。事業継続において遠隔地の同業他社との連携が特に重要であることを強調し、大賞を受賞した企業・団体などの事業継続の実践において、どのようなポイントが事業継続の評価として高いのかについて解説しました。



勉強会での議論の様子

文責：寅屋敷 哲也（人間・社会対応研究部門）